

北アルプス白馬に行った。3月最終の週末を利用して。新宿から約4時間。中央線で松本を過ぎ、大糸線で、穂高、大町を過ぎると白馬だ。日本海まで直線距離で50キロほど。駅を降りると別世界が現れた。

今回の旅の目的は、山と雪と星空だった。到着した日、白馬はこの時期に珍しい激しい降雪に見舞われ、視界は、時に10センチを切った。そんななかで、一日、残雪と過ごした。当然、星空も見えなかった。都会の光の中では決して見ることもできない夜空を期待していた。オリオン座の三ツ星。左上の赤い星がベテルギウス。三ツ星を東側に伸ばしていくと、青白く光るのが、



やまもと たろう  
山本 太郎

て、南西に見えるプレアデス星団、和名「すばる」が、澄んだ空に見えるはずだった。がそれは次回の楽しみとなった。

翌日は、うって変わって快晴となった。雪をかぶった白馬三山、白馬岳、杓子岳、白馬鍾ヶ岳と、2900メートル級の山々が眼前に広がった。見飽きることのない景色に、しばしばうぜんと立ち尽くした。金子みすゞの詩『わたしと小鳥

小鳥はわたしのように、地面をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすっても、きれいな音はでないけど、あの鳴るすずはわたしのようには、たくさんのうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。凜(りん)と澄み渡った空気が、向き合う自然、山はそんなところが魅力なのかもしれない。そして、地球の活動のスケールからすれば、「みんなちがって、みんないい」に違いない。

友人の一人は言った。「冬山はいいですよ。志賀横手山の冬の雲海も最高です」  
(長崎大熱帯医学研究所教授)



おおいぬ座のシリウス。そこからさらに東に視線をやるとプロキオンが見える。冬の大三角だ。そし

とすずと』を思い出した。わたしが両手をひろげても、お空はちっともとべないが、とべる